

金沢市で「北陸防災情報通信セミナー」を開催

～熊本地震から見た課題と無線LAN・係留気球による通信確保～

北陸情報通信協議会は、北陸総合通信局とともに、平成28年12月8日（木）、KKRホテル金沢において「北陸防災情報通信セミナー」を開催しました。セミナーには、国や自治体などの防災関係機関、電気通信事業者、放送事業者など約60名の参加がありました。

冒頭、主催者を代表し、吉武久北陸総合通信局長が「熊本地震の直後の地震に関する情報の入手手段について、「テレビ」が61.5%、次いで「携帯電話やインターネット」が48.6%との結果が出ている。情報の入手先として通信・放送がいかに重要であるかがわかる。関係の皆様の日頃からのご尽力に改めて感謝する。」と挨拶しました。

セミナーでは、はじめに、金沢大学理工研究域環境デザイン学系の宮島昌克教授が「熊本地震による被害の特徴と今後の課題」と題して講演し、震災後自らが現地でドローンにより空撮した動画や画像を交えて、熊本地震の被害の概要やライフラインの復旧状況等を説明しました。



【講演する宮島教授】



【講演する中井副委員長】



【講演する中島部長と係留気球】

続いて無線LANビジネス推進連絡会運用構築委員会の中井大副委員長が「いのちをつなぐ災害時Wi-Fi「00000JAPAN（ファイブゼロ・ジャパン）」と題して講演し、東日本大震災を教訓に仕様策定され、災害時に誰でもつながることができるWi-Fi「00000JAPAN」について、2013年9月の釜石市での実証実験、2014年8月の広島土砂災害、本年4月の熊本地震での事例を紹介しました。

最後に、ソフトバンク株式会社ソリューション研究部の中島潤一担当部長が「ソフトバンクの災害対策と係留気球」と題して講演し、通信キャリアとしての熊本地震に対する取組の説明や、携帯電話基地局を積んだ係留気球による通信確保について、模型の展示を交えて紹介しました。

会場には、災害時に北陸総合通信局が地方公共団体や災害復旧関係者に貸出するMCA無線機、簡易無線機及び衛星携帯電話が展示され、参加者は、MCA無線機及び簡易無線機による実際の通信を体験していました。



【災害時に貸し出すMCA無線機と簡易無線機】